

令和2年度病害虫発生予報第3号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち）	並	並
	紋枯病	並	並
水稲共通	ヒメトビウンカ（技術情報第3号）	並	並
	縞葉枯病（技術情報第3号）	少	少
	ツマグロヨコバイ	並	並
	萎縮病	並	並
	セジロウンカ	並	並
	トビイロウンカ（防除情報第5号）	やや多	やや多
コブノメイガ（防除情報第6号）	やや多	やや多	
いちご （育苗床）	うどんこ病	少	少
	炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ）	並	並
	ハダニ類	並	やや多
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病	並	並
	黒点病	並	並
	ミカンハダニ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
びわ	がんしゅ病	並	並
	灰斑病	少	やや少
	ナシヒメシンクイ	並	並
なし	黒星病	やや少	並
	ナシヒメシンクイ	並	並
ぶどう	べと病	並	並
	黒とう病	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	並	並
果樹共通	カメムシ類（注意報第2号継続）	やや多	やや多
茶	炭疽病	並	やや多
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	やや多	やや多
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	少	少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（40筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平

均発病株率0.0%、発生圃場率0.2%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(過去10か年平均 発病株率0.0%)。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。好適条件等の詳細は病害虫防除所ホームページを参照)。

月日	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
6月1日	●	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
6月5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月12日	—	—	—	—	●	—	●	—	—	—
6月13日	—	—	—	—	—	—	●	—	—	—
6月14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月15日	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—

発生指標	?:判定 不能	—:好適 条件なし	1:準好 適条件1	2:準好 適条件2	3:準好 適条件3	4:準好 適条件4	●:好適 条件
------	------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	------------

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容: 発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(40筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

## 水稻共通

### 1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報内容: 発生程度 ヒメトビウンカ 並  
縞葉枯病 少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(40筆)の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)、発生圃場率は32.5%(39.8%)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(過去10か年平均 発生株率0.0%、発生圃場率0.2%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稻におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.5頭(0.4頭)であった。縞葉枯病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

ウ ヒメトビウンカ(第1世代)の生息量及びイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況については令和2年6月16日付け**病害虫発生予察技術情報第3号**による。

### 2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容: 発生程度 ツマグロヨコバイ 並  
萎縮病 並

(2) 予報の根拠

- ア 5月下旬のイネ科雑草地（3地点）から採集したツマグロヨコバイ（第1世代）についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%（0%）であった。
- イ 6月前期の巡回調査（40筆）の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）、発生圃場率は22.5%（33.4%）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は1.8頭（2.0頭）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

### 3. セジロウンカ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
- ア セジロウンカはネットトラップ（諫早市）において5月10日に初誘殺を確認し、平年より早かった。
- イ 6月前期の巡回調査（40筆）の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.2頭（0.1頭）、発生圃場率は42.5%（26.0%）であった。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は1.5頭（0.7頭）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項  
今後の飛来状況に注意する（病虫害防除所ホームページ参照）。

### 4. トビイロウンカ

令和2年6月16日付け**病虫害発生予察防除情報第5号**による。

### 5. コブノメイガ

令和2年6月16日付け**病虫害発生予察防除情報第6号**による。

## **いちご**

### 1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠  
6月前期の巡回調査（30筆）の結果、発病株率は0.0%（3.6%）、発生圃場率は3.3%（21.4%）であった。

### 2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠  
6月前期の巡回調査（30筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、育苗床の除草を徹底するなど、環境整備に努める。
- イ 育苗床は全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上りを防止する。また、雨よけ施設がある育苗床ではビニール展張を行う。
- ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置せず、適切に処理する。
- エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、

下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に薬剤散布を行う。

### 3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（30筆）の結果、寄生株率は9.1%（6.1%）、発生圃場率は43.3%（40.3%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

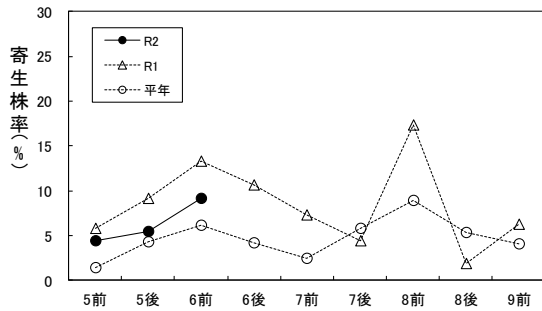


図 ハダニ類 寄生株率の推移

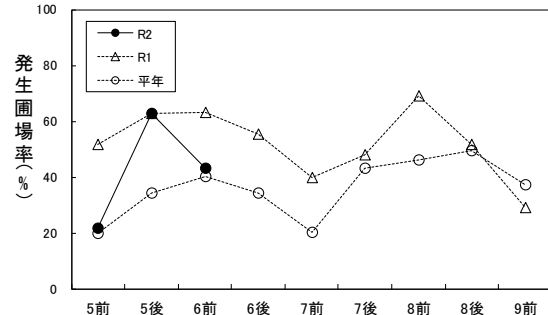


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 土着天敵の活動が活発になるので、天敵への影響が大きい有機リン系・カーバメート系・合成ピレスロイド系薬剤の使用は避け、気門封鎖剤等の天敵に影響の少ない薬剤を積極的に使用する。なお、気門封鎖剤は卵に対する効果が低いので5～7日おきに連続散布を行う。

イ 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤（令和2年長崎県病害虫防除基準P214～217の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

## アスパラガス

### 1. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所）は29.8頭（17.8頭）、発生圃場率は50.0%（70.5%）で、一部多発圃場が見られた。

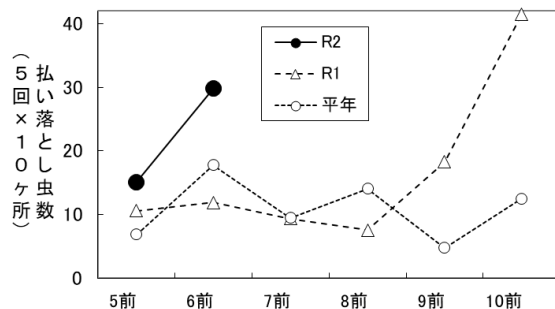


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移  
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

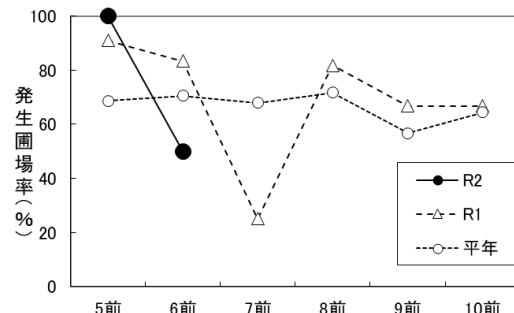


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

# かんきつ

## 1. かいよう病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は2.8%（5.1%）であった。

## 2. 黒点病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

## 3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は6.8%（6.8%）、発生圃場率は41.7%（40.5%）であった。

## 4. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（36筆）の結果、被害果率は0.0%（0.0%）、発生圃場率は2.8%（0.3%）であった。  
イ 黄色粘着トラップ（諫早市小船越町）による誘殺量は、平年よりやや多く推移している（図）。

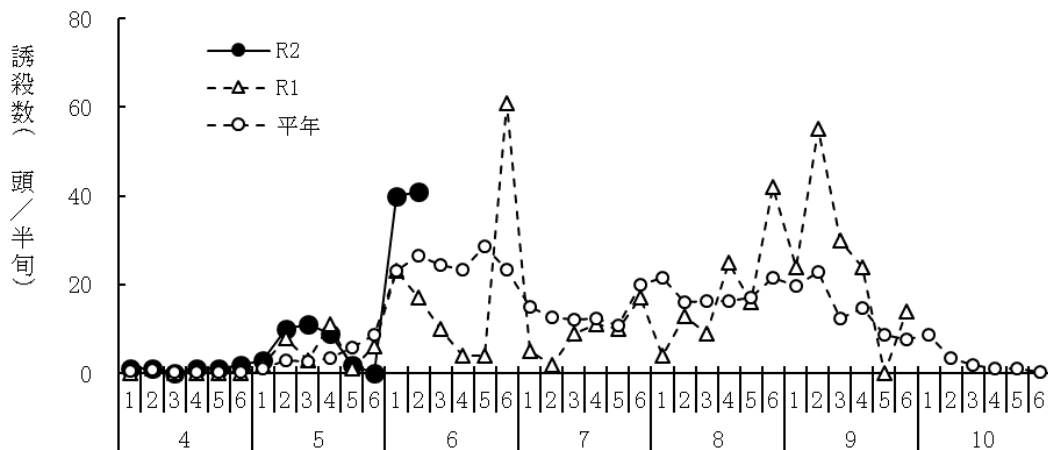


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況  
（諫早市小船越町：黄色粘着トラップ）

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日は、平年より5～11日程度早まる見込みである（表）。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第3世代	6/25	6/26	7/4	6/27	7/7
〃 (平年)	7/1	7/7	7/9	7/2	7/14
〃 (前年)	6/29	6/29	7/7	7/1	7/9
第4世代	7/14	7/16	7/24	7/16	7/26
〃 (平年)	7/20	7/26	7/28	7/21	8/2
〃 (前年)	7/17	7/17	7/25	7/19	7/27
標高(m)	27	4	43	10	58

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2020年6月14日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する可能性がある。

注3:表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

## びわ

### 1. がんしゅ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発病葉率は0.3%(0.5%)、発生圃場率20.0%(23.8%)であった。

### 2. 灰斑病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生枝葉率は0.6%(3.8%)、発生圃場率は30.0%(67.5%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は、平年並か多い見込みであり本病の発生に好適である。

### 3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ フェロモントラップの誘殺量は諫早市小船越町は平年よりやや少なく、長崎市茂木は平年並で推移している(図)。

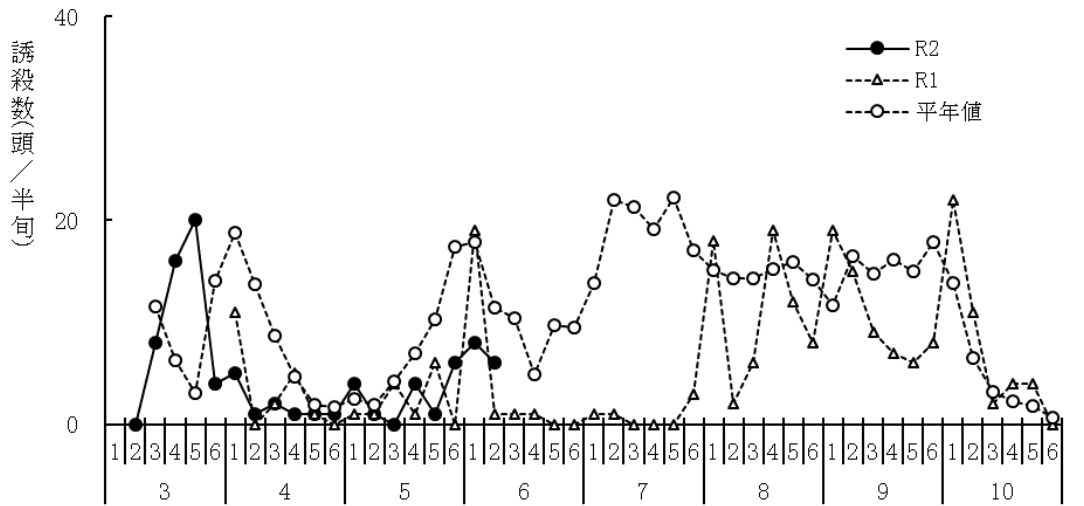


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況 (諫早市小船越町:フェロモントラップ) (月・半旬)

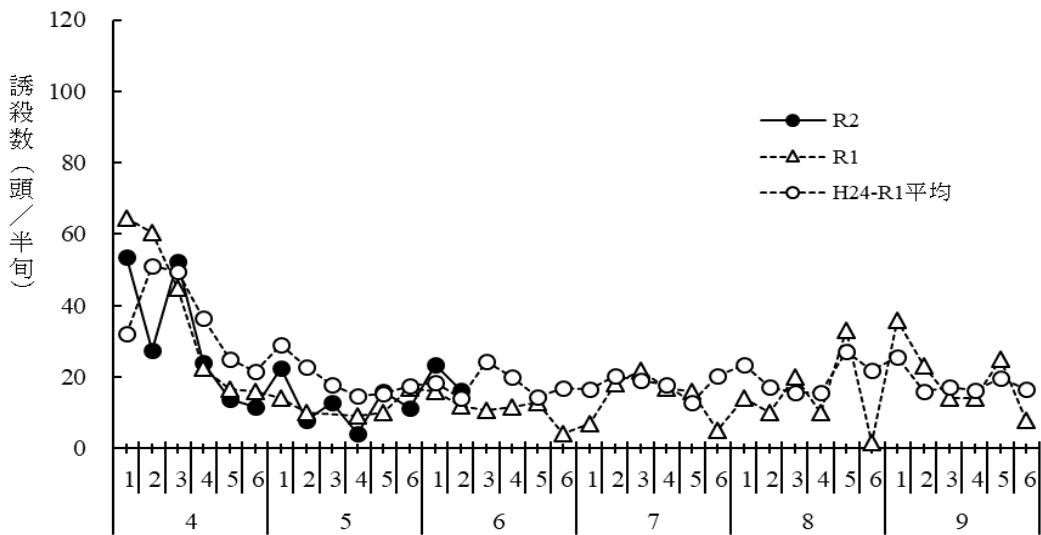


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(長崎市茂木・フェロモントラップ) (月・半旬)

なし

### 1. 黒星病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.9%)、発生圃場率は16.7%(38.9%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は、平年並か多い見込みであり本病の発生に好適である。

### 2. ナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去4か年も発生を認めない)。

イ フェロモントラップ(諫早市小船越町)での誘殺量は平年よりやや少なく推移している(びわの項参照)。

# ぶどう

## 1. ベと病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率0.0%（0.1%）・発生圃場率8.3%（5.2%）、発病房率0.0%（発生を認めない）・発生圃場率8.3%（発生を認めない）であった。

## 2. 黒とう病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（12筆）の結果、葉と果実の発生を認めなかった（発病葉率0.3%・発生圃場率12.5%、発病果房率0.7%・発生圃場率8.3%）。

## 3. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（被害果房率0.0%、発生圃場率1.0%）。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並よりやや多く推移している（かんきつの項参照）。

# 果樹共通

## 1. カメモシ類

令和2年5月18日付け**病害虫発生予察注意報第2号**を継続。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

- (1) 発生状況等

ア フェロモントラップの誘殺量は、平年並みから多く推移している（図）。

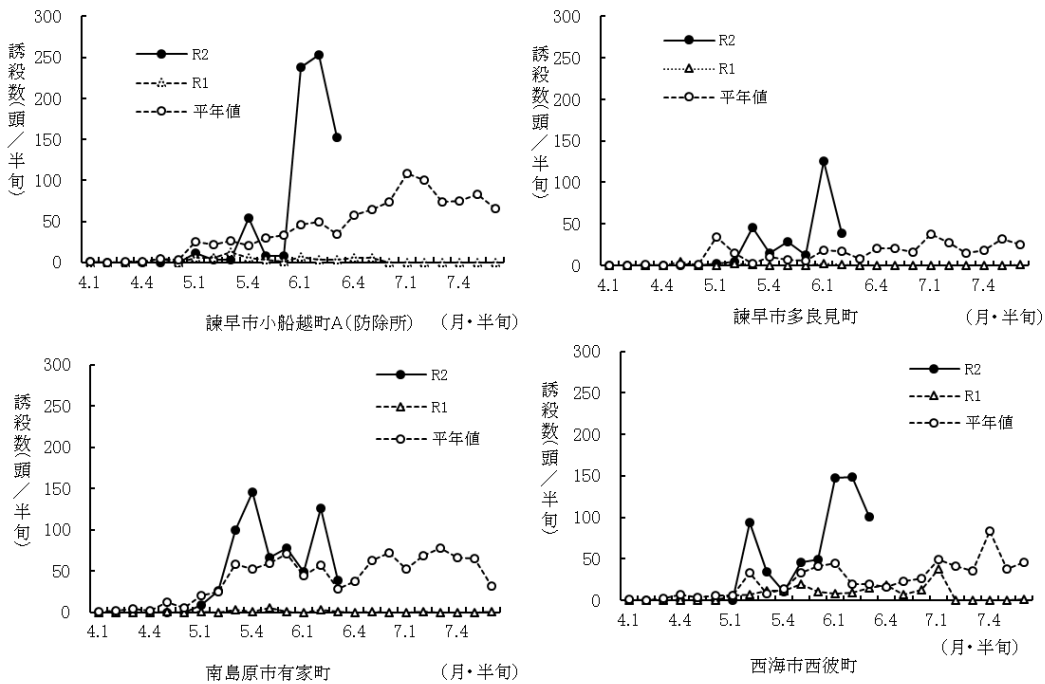


図 チャバネアオカメモシ・ツヤアオカメモシの誘殺状況(黄色コガネコール)



茶

1. 炭疽病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ア 6月前期の巡回調査（20筆）の結果、1㎡あたり発病葉数は0.4枚（1.5枚）、発生圃場率は45.0%（32.9%）であった。
  - イ 向こう1か月の降水量は、平年並か多い見込みであり本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
  - 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P426～427の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
  - 6月前期の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は23.4頭（19.6頭）、発生圃場率は90.0%（91.1%）であった。

3. チャノコカクモンハマキ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ア 6月前期の巡回調査（20筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.0枚（0.0枚）、発生圃場率15.0%（3.8%）であった。
  - イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年より多く推移している（図）。

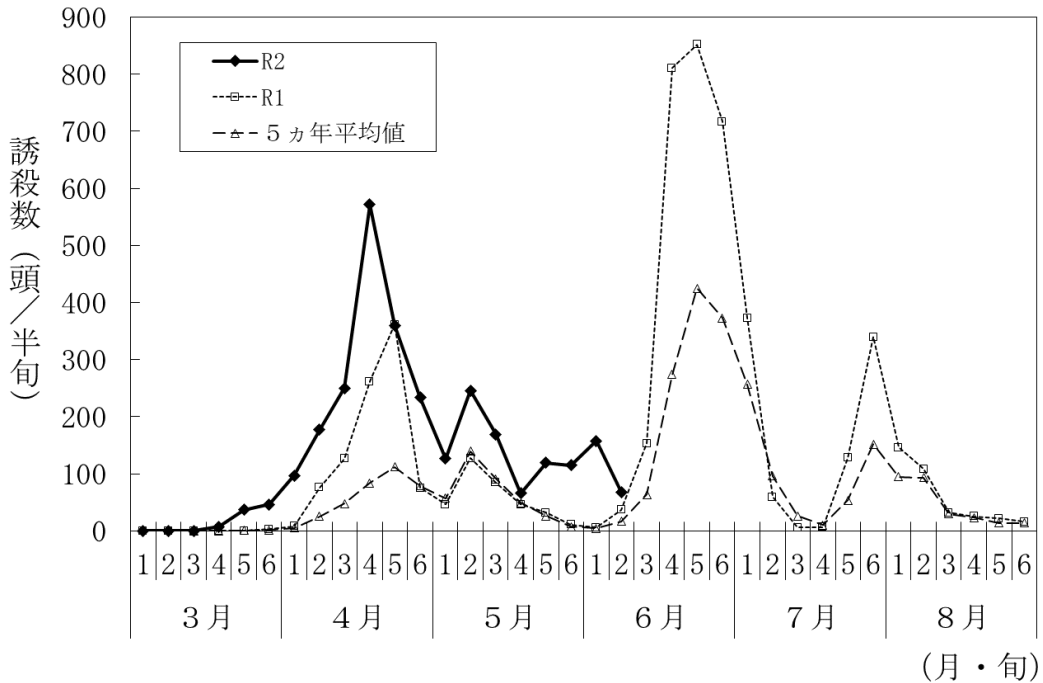


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

- (3) 防除上注意すべき事項
  - フェロモントラップにより発生消長を把握し、巻葉前に薬剤防除する。

#### 4. チャノホソガ

- (1) 予報内容：発生程度 並  
(2) 予報の根拠

ア 6月前期の巡回調査（20筆）の結果、1㎡あたり巻葉数0.0枚（0.1枚）、発生圃場率15.0%（5.6%）であった。  
イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年並に推移している（図）。

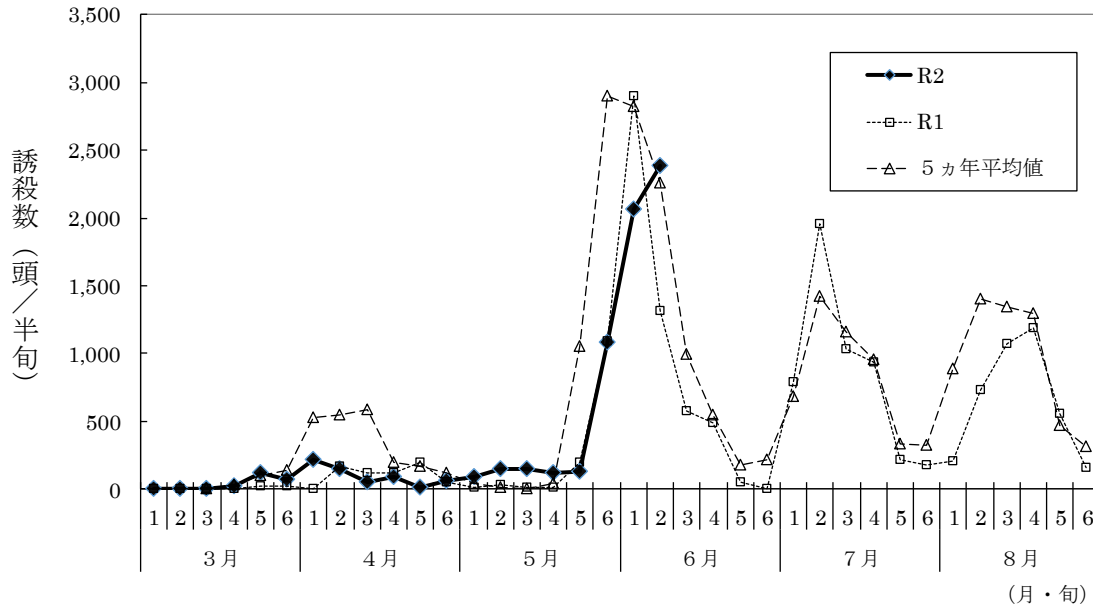


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

#### 5. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多  
(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（20筆）の結果、寄生葉率は8.2%（3.8%）、発生圃場率は55.0%（32.8%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

イ 薬剤感受性低下防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P428～429の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

#### 6. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多  
(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は10.1頭（4.6頭）、発生圃場率は100%（61.8%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準 P428～429の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

#### 7. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 少  
(2) 予報の根拠

6月前期の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は0.5%（8.7%）、発生圃場率は5.0%（44.0%）であった。

【参考】

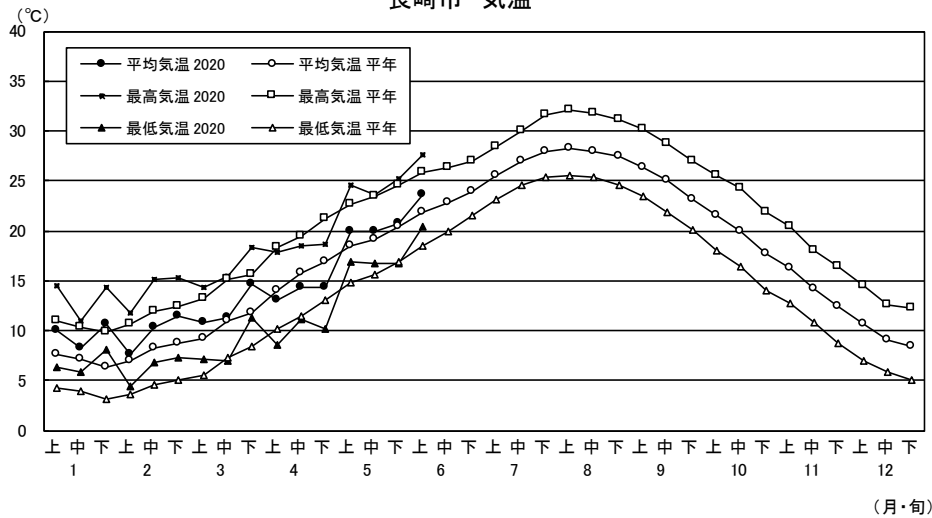
(令和2年6月11日発表 1か月予報 福岡管区気象台)  
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

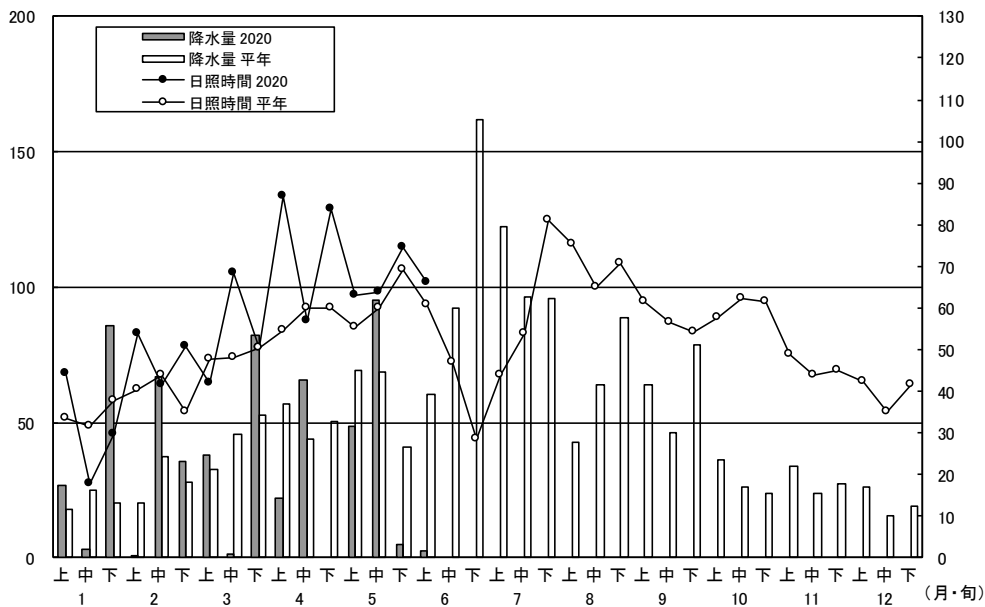
※予報対象地域：九州北部地域

令和2年の気象経過（長崎地方気象台）

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間 (mm) (hr)



○6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

